

## 「フィネガンズ・ウェイク」第3部第2章の概要（2）

著者	大島 由紀夫
雑誌名	東京海洋大学研究報告
巻	9
ページ	39-50
発行年	2013-02-28
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1342/00000465/">http://id.nii.ac.jp/1342/00000465/</a>

## 『フィネガンズ・ウェイク』第3部第2章の概要 (2)

大島 由紀夫\*

(Accepted October 29, 2012)

### The Epitome of James Joyce's *Finnegans Wake* III. 2 (2)

Yukio OSHIMA\*

**Abstract:** I translated into Japanese James Joyce's *Finnegans Wake* III, 2 (p.454 l.8 ~ p.473 l.25). In some parts I translated it word for word, but in other parts I just gave the gist of the sentences or the paragraphs. So in naming the title I used the word 'epitome', not 'translation'. The epitome mainly treats Jaun's, or Shawn's sermon to 28 Rainbow Girls (girl students) and his sister Issy, and Issy's parting words to Jaun.

**Key words:** *Finnegans Wake* Part III, 2 epitome

[454] 何か腹の皮をよじらせるようなことが、西洋の吟遊詩人ジョーナサンジョーナサンの身に起ったに違いない。というのも、自分の朗々たる声に彼女たちがどんなに楽しく和したがつているかを考えただけで、堂々としたあからさまな心からの馬鹿でかい笑い声が（潜伏生活のラッジ【ディケンズの『バーナビー・ラッジ』に登場する殺人犯】でさえ、その声で鳥が落ちたと思った）彼のしゃがれ声ののどから、クリケットの野手の頭上を越えて舞い上がったボールのように飛び出たからである。そして真夏の熱狂の原型とも言える彼女たち全員が、陽気で神聖な、純朴な、大きな、甲高い喜びの声を、火花のようにあげ始めたのだ。おお、ジョーン、こんなにも奥深くもおどけたことを言うなんて、ああ、（純粋なあなた！ 私たちの汚れなき人！ 神聖なあなた！ 私たちの健康の元！ 強いあなた！ 私たちの勝利者！ ああ、役に立ってくれる人！ 私たちの深い孤独を支えて！ なだめ役のあなた！ がさつな人たち、聞きなさい！ ちょっと遅いけど、私たちはあなたに求婚しました。危険な美しさをもった人に。）するとそのとき突然（なんと女みたいなのだろう）、メリクリウス【ギリシャ神話中の神】のようにすばやく、いきなり彼はくるっと体をまわし、いかめしい表情でまともに生意気な少女たちと向き合った。そして鋭い目をかなりぎらつかせて（雷鳴のようになんとその目は暗かったことか！）、【彼女たちの間で】何が起ろうとしているのか知ろうとした。それゆえ彼女たちはじっとしたまま訝しんでいた。そしてまず彼はため息をついた（なんとつらそうなため息だったことか！）。彼女たちが危うく叫びだしそうになると（地の塩だ【社会の構成員の中で最も健全な人】！）、そのあと彼は考えて、ついにこう答えた。

一更に言うべきことがある。別れの言葉だ。だから心の

音を静めておいてくれ。約束してくれ、お願いする！ ちゃんとそうしてくれ。本当にちゃんとだ！ 私が言えることは次のことだけだ、私の妹たちよ。実際、いつでも至高の時に祈りを積み重ねろということだ。天国の郊外である現世で、若い人たちのグロリアの合唱と年輩者の神をたたえる栄唱とが競い合うように歌われれば、中断が何回あろうと、穏やかな家庭生活を送る仲のいい老夫婦のように、我々は互いに寄り添いながら皆穏やかな気持ちで、心地よい永遠の因果応報による果報を受けることとなろう（居酒屋で）。聖なるかな！ 聖なるかな！ 聖なるかな！ 幸せになりたければ、来て留まれ。そこには神聖なくつろぎがある！ そこはローマ帝国の元老院と民衆の行列とを思い起こさせる。神聖なくつろぎをめざせ。神聖なくつろぎをめざせ！ 頭を上げて、それを追い求めよ！ つまらない家庭内のいざこざなどそこにはない。[455] その中庭では家庭内のハリケーンが生じることもないし、コップを相手に投げつけることもないし、唇を打擲することもないし、パンチが規範となることもない。何も起らないのだ。並の詩人よりはるかに優れているバーンの詩があるし、永遠にお前たちの理想であるイブもいる。新しいビンの中に古いワインが入っていることはないし、今や聖人となった人たちのなかには、以前のつみびと罪人の姿はない。天国ではマダムタッソーの蠟人形館の恐怖の館から保釈された人形たちの着ている盛装と同じ服が着用される。好むと好まざるとにかかわらず、サフランケーキでも極上の子豚の肉でも、どちらか好きな方をもっていける。アイルランド中が平穏なのだ。そしてすべての人たちにとって、家には内省のための食べ物がある。これまでにそうしたものをいくつお前たちは手にしたというのか。どのくらいいい香りをお前たちは嗅いだというのか。どれほど多くの食べ物の香りを嗅ぎ、それ

\* Department of Maritime Systems Engineering, Division of Marine Technology, Graduate School, Tokyo University of Marine Science and Technology, 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533, Japan (東京海洋大学大学院海洋工学系海事システム工学部門)

が美味だと語ったというのか。ドン・ジョバンニの助言を受け入れよ。死後の世界は素晴らしいということ。宴と大差ない。明日もその次の日もそのまた次の日も。この現世では粗野で空虚な常に不気味な生を営むが、ついにある日親愛なる我々の父が骨で戸のベルを鳴らし、彼の背後に悪臭を放つ仲間の者たちが大鎌と砂時計をもって立つ。我々の祖先はアダムとイブかもしれないが、不安定な生を送る我々はやがて確実に無限の神の庇護の下へ送られるよう運命づけられている。この現世では我々は凡庸なカインであり、汚濁の上に落下し、間近には見知らぬ人間と救命胴衣しかなく、一時しのぎのパンもなく生きている。しかし予知者である神の下では、お前たち若者全員が、いかなるものであれ新しいものの到来を、いかなる確信の仕方であれ完全に確信して羽ばたくことができ、神が治めている間、その新しいものを永久に肯定できるのだ。ああ、そして帝王のもつこの本物の球形の銃が、キリスト教の説く地獄が与えられるようにと王にふさわしく火を噴き、道化者が最期の時【最期の審判の時】の冗談を正式に語り始めるときに、死後の世界において再び我々是一緒になる。その時の喜びに比べれば、結局今日の陰鬱で生気のないこの地上は、快樂はさておき、我々のみじめさそのもののように見える。すべてのものは十戒の下に置かれているのだ。

さて、肉のスライス切りや野菜を添えた骨付き肉はそれなりに結構だ。また添え料理としてのジャックナイフのついたリブローズもそれなりに結構である。しかし家庭料理は常に行われるものだ。良質のマスタードを山のようにつけて、淑女たちの試食用の指と紳士諸君の舌との助けを借りて、私はたらふく食べた。しかし牡蛎をいくつか食べたときには、以前味わったおいしさの二倍のおいしさを味わった。ローストポークの上皮を噛むとパリパリ音がする。私に熱い紅茶をもう一杯入れてくれ。何とすばらしい！ あれは絶品の紅茶だった！ [456] 味も濃かった。私はお前たちが特に念入りに作ったジュージュ音を立てる温かい素敵な昼食をおいしく食べた。実においしかった、本当にありがとう（極上のものだった！）。煮込んだ豚の脚（ほめたたえよ、ほめたたえよ！）と一緒に、これまでに食したものの中で一番柔らかなコンビーフも私は食べた。ただし、お前たちのエンドウ豆は、その時もあまりに塩味が強すぎて飲み込んでも風味が感じられず、それゆえお礼としての最上の褒め言葉も口にしなかつたし、心付けとしての1ペニーを皿の上に置くこともできなかつた。O.K. & A.I社のソースを使っていたのに！ おお、宇宙よ！ ああ、アイルランドよ！ ああ、アイ。イタリアの（しかしとくにそうでなくともよい）一般的なチーズを加えた、欲張った巻き状キャベツ入りのコルカノンの代わりに出たハギスは、おいしく、味も濃く、これからも廃れることはない。これらの料理のレシピを私はもっている。すばらしいことだ！ オリバー【・クロムウェル】よ、あんたの輝かしき日のために、このレシピをとっておくがよい！ 【あんたが

食するのは】貧弱なスープだろうからだ！ 目も当てられないくらいに。しかしあんたが最高級の毛皮のコートを私に買ってくれるつもりがあるのなら、試着してみよう。それはかなり良質のコートで、言うまでもなく私に変わった彩りを与えてくれるであろう。この幅広ブロードクロス【昔の高級紳士用の黒ラシャ】は片付けておいてくれ！ 給仕たちに言ってもらいたいのだが、次の機会にはユグノー教徒が食べる様々な野菜の代わりに、私はいくつかの白いカリフラワーと一緒に、樺の木に刺してあぶった甘辛のダックに歯を立て、それをほどいて食べてみよう。私は修道院の禁欲的生活から外へと出たい。ミサと肉は人の行く手を妨げない。行こう、終わったのだ。神経に効くナッツを、インフルエンザに効く塩づけの豚の脇腹肉を、そして心の各部屋に喜びをもたらすよう、カレーやシナモンやチャットネヤクローヴなどの香料を産出する諸島が産み出すアルコール飲料を、私は食べたり飲んだりする。すべてのビタミン剤は嘔吐と心を酔わせ始める。ファッジ【キャンディーの一種】やステーキ、そして子ガモやキャベツやポイルしたポテトにのせた豆やベーコンやライスやオニオンは、ハーモニーを作りながら鳴り響く音であり、ついには食べ過ぎてファルスタッフのように腹を膨らませてしまう。そしてあつという間に私が大急ぎでここを去る時となるだろう。お前たちはまたいつものように私が転がっていくのを見るだろう。テルミヌス南通り、キラダウン、レターヌーシュ、レタースピーク、レターマックからリトラナニマ、そして、お前たちが理解できればの話だが、アイルランドで最も広い邸宅に至るまでのポストから手紙を集めるのだ。次の私の行動の基本方針は、好ましからざる印刷物を郵送したということで、特別の郵便料金を負債者タデウス・ケリー殿から徴収することだ—専門外の仕事を私は課せられたのだ。この遺伝的変質者は最初の犯罪者であるアダムとイブの時代から、ずっと弱者から甘い汁を吸い、負債者から血を搾り取っている。しかし自分が何をするのか私は知っている。奴を大いに痛い目に遭わせてやるのだ。そうしてやる。そしてそれがいわゆる記念すべき日となるだろう、親愛なる者たちよ。奴を叩きのめしてやる！ 踏み潰してやる！ コン・コノロイの住居であるヘルファイア・クラブの戸口を私が立ち去る前にバラバラにしてやる！ [457] ラグビー選手のコロピー兄弟という豊饒の角両方を使って、遅まきながら奴を脅してやる！ いや、私の名前は『恋は骨折り損』に出てくる改悛したフェルディナンドではない！ そして奴が罰金を払うまで、毎日、毎時間奴を可愛がってやる。アーメン。

さあ、お前を見つめながら乾杯だ！ 私の樽板が延べ棒になるときまで、少女であるお前のもとを去ることがないのなら、私は是非とも情熱あふれる父親になりたいものだ。この切望に私は押しつぶされる！ この切望に！ 私の怒りは和らぐ！ 私の怒りは！ お前はずっとずっと永遠に、死が近づくとときまで幼い尼僧院長としてこのままとど

まり、見せかけの祝福としての無意味な祈りを捧げながら待つこともありうるのだ。私の好きな巻き毛はどうなってしまうのか！ 逃げ足の速い山賊のクロード・デュバルのような男が私をとらえ、私の邪魔をし、私自身の権利を奪おうとするのなら、誰であれ1、2、3、4、5と拍子をつけて、最強の踵のキックを右足、左足と醜い顔にお見舞いしてやる。そいつは態度を改めるだろう。何としてでも改めさせてやる！ 親愛なる心の引き手よ、自らを励ませよ！

お前にはいずれ返報をするから、私に対する義務を果たしてくれ！ お前のところに私が舞い戻るまで、お前の胸のベルトより下のふくらんだ部分に【貞操帯を】打ちつけておいてくれ。毎週が矢のように過ぎ去っていくにつれ、お前はますます私がいなくて寂しく思うだろう。確かに日曜日にも、本当に月曜日にも、新たに火曜日にも、そして水曜日にも。西にいる私を常に探し求めている。そうしてくれれば食事に招待しよう。ただあるのは一滴か二滴の涙だけだ。そしてそのあと、一刻一刻時が過ぎ行くなかで、長旅にはつきものの喫煙している姿をシルエットとしながら、最も偉大な不在地主の勤勉閣下のもとに【取り立てに】私は向かうのだ。彼の元へ！

私の、そう、私の大事な人よ。私たちは幸福すぎるくらい幸福だったわ。何かが起るだろうということは知っていた。分かっていたけれど、でも聞いて、親愛なるお兄さん、と、イーシーは顔を赤らめながら、しかし目の奥から光を矢のように射て、彼女の男性の話し相手の心をとらえ、たわいもない甘い言葉を、彼のすばやく向きを変えた耳にささやいた。私は知っているの、ベンジャミン兄さん、でも聞いて、女の子たちが許してくれるのなら、私は私の願いをささやきたいの。(彼女は、彼女たちと同じように、語り手である私や読者である諸君と同じように、無口な舌がいったん解放されたならば、穏やかにその言葉を止めるといったようなことを彼はほしないうちかと思っていた。)もちろん、親愛なる天使さん、便箋という記念品をこの最後の時の贈り物としてあなたに送るのを、一生の間(咳払いを失礼します)私は恥ずかしく思います。ごめんなさい、私の大事な人よ、家の中にあるもので私自身のものと呼べるのは、この便箋だけなのです。しかしやはり聞いて、ジョーニック、この貧者の一灯を受け取って。[458] ただしこの真の価値をもつ未亡人用の便箋は、一か所私の手によってちぎられ、そしてもう一か所、リネン・ホールで売っているバレンタインカード代わりのこの贈り物は、私が最も愛する、強い愛を委ねたチューターのXXXXの手によってちぎられたのだけれど。この便箋を、私の最も可愛い教区の司祭マイケル神父のために、ここだけの話だけれど、あなたも知っているあなたのお友達の教皇は祝福してくれました。40日間昼夜を通し、これは掘り出し物だとか、見てみなさいとか、目に入れてごらん、早くとかいう言葉で。これは完全に、言葉では言い表わせないくらいに貴重なものです。でも聞いて、今後必ずや私を高めて下さい、私の好

みを満足させて下さい、そして命が途絶えるまで、朝からこの便箋を携帯して下さい。そしてもちろん、それを使うときはいつでも、聞いて、どうか常に、何度も何度も、決して忘れずに、妹のマギーではなく、手紙を送ってもらう方のことを考えて下さいね。アヘン。最低に馬鹿みたいな咳ね。ただ絶対に風邪を引いて私たちにうつさないでね。そしてグレーハウンドが跳ね回り、雲雀が舞い上がっているのだから、心の闇に入らないでね。そして、ジョーン、次のことも心に留めておいて下さい。青いクワガタソウの小枝から花が咲く時期がまさに来たのだから、あなたのクワガタソウを気にかけていてということ。もちろん、ジャ、誰があなたにそれを送ったのかあなたが知っている、ということには分かっているの。つまり、使い古したフィルムのような川面であなただけを喜ばすプレゼントをね、ありがとう。もちろん本当にチャーミングな贈り物だわ。でも酔った彼女の意地の悪さはともかく、このことではマギーは正当に扱われていない。どうか手紙を書いてね。【私に対する】疑惑の入った、人を詮索するちっぽけな袋は、後に残して完全にあなただけのものにしておいてね。そして、お願い、どうかあなたを愛している者に速達郵便で返事の手紙を送ってね。さもないと、誰のことだったか、私は考えなくなってしまふ。また凝った豪華などんなボタンが私の体形に合っているか、速達郵便で知ろうとするのと同じように、何か面白いことが起ころうとしているのか好奇心を抱きながら、朝食の席でホームズワース社発行のタブロイド紙を食い入るように読むことになる【そうやって、あなたのことに興味を抱かなくなる】でしょう。またさもないと、直ぐあなたから便りがあると期待することもなくなるでしょう。何もおまけのついていない10ポンド札と1ポンド札をどうもありがとうございました。絹のような便箋であなただけに手紙を書くのを忘れないように、私の所持品に結び目をつけておきましょう。というのも、ある日金銭的にこの便箋に値打ちが出るだろうと思うことがよくあるからです。だから特別な場合に送るのでもない限り、わざわざ返事を出して頂かなくても結構です。私は彼の支払いを受けているし、何の不自由もしていないからです。それゆえ、自分のよじれていない巻き毛とその愛らしい輪の形のためにのみ生きていられるのです。私がこの巻き毛を捨てたら、皆は【私の後釜となるために】競争するでしょう。蚤のような女の子も巻き毛が自分の特質だと言っています。蝶のような女の子もシラミのような女の子もそう言っているし、蛾のような女の子にしても同様です！ そして、聞いて下さい！ 髪が大事なんです！ あなたはいつもとても遠いところにいるのね。あなたの口の形は弓形ね！ 全く完全に！ 私は櫛と、口を卵形にする「おお」や素朴な「ああ」の発声練習をするための鏡をバッグにつめておきましょう。[459] そのあとあなたは、サファイアのロザリオの数珠のような目で私がじっと見つめるなか、堂々と遠くから戻ってくるでしょう、私は神に向かって、みんなに向かっ

て、あなたのためにこのロザリオの祈りの文句を口にしましょう。子守りのマジック【妹のマジックのこと】と一緒に。鳩が私の口のつぼみをついばんでいる間に（ムシュ！ ムシュ！）。このマジックは私とは正反対の子で、不美人で貧乏なオランダ人で、彼女が寝ながら話しているとき、はしかの斑点を顔に書いたり、口髭を書いて男にしてあげたりするのです。私たちが。私たちがやったの。白状しましょう、このイシーがやったのです。でも彼女の房付きのブーツと色あせた黒のストッキングのために、あなたは彼女のことが大好きになるでしょう。これらは在庫一斉処分セールの安売りの品で、洗濯物から拾い上げられたものよ。猫の扁桃腺じゃないかしら！ 彼女は髪をきれいにしている、本当に魅力的です！ 私に瓜二つなので、彼女のことをソシーと呼んでいます。私がサシーと言うと彼女はソシーと言うのよ。もっといくつか授業があるんじゃないの、と聞くと、もっと馬鹿にされたいの、と答えます。可愛いアテルの話なんか全くしていないのに、この親愛なるプリンスの話をするのです。でも彼女はすでに私の友達を魅了しています。私が一番困ったとき、私の立場になって考えてくれることを考えると、彼女はあなたのやり方が大いに気に入っているのね。彼女は私の腕を本当に優雅にキスしてくれるでしょう。しかしそのことを除いても、アーン南通りを曲がっている時なんか私の妹は本当にすごく好きなんです。私は常に厳格に禁じられるのでしょけれど、私自身のやり方に忠実に、人目につかずに長い間、あなたのことが好きになっていた。あなたのことが大好きでしょう女の子と一緒に。私は彼のことが大好きなのに、彼の方は一度も自分の気持ちを言ってくれない、その彼と同じように彼女はあなたを好きだと一度も口にしないのだけれど。私の言っていることが分かりませんか。ああ、お兄さん、私は本当のことを言わなければなりません！ 私が最近つきあっている人のラブレターに、確かに私は応えてあげたのです。私は彼のことがとても好きなんです。というのも決して口が悪くないから。ちょっとばかり美男子で。ちょっとばかり大事な人。可愛いとは言えないけれど、確かににはにかみ屋なんです。そう、私は彼の家の庭の門の掛け金はずして、彼を外に連れ出すのが大好きです。開け、ごま、彼らめがけて。【ウェリントンの号令、「立て、兵士たちよ、彼らめがけて、のもじり】私の命令はすべて従いなさい、と言うと彼はそうします。彼は私の唇、私の舌足らずの発音、私の淫らな話し方にいかれてしまったのです。また私の方は彼の強さ、彼の男らしさに魅かれました。そうした彼のもっているものが気になりますか。彼のそうしたものは比類のないものですよね。そしてもちろん、親愛なる教授、私には分かっています。次に私の言うことはぜひ信じて下さい。あの手紙の内容は変えないものの、あなたの名前を変えることくらいはしますが、私の少年らしい巻き毛さん、でも、一万馬力の持ち主である私の心の盗人と婚約するようになって、[460] あなたの純粋で汚れのないリップス

ティックのうち的一本【キスのこと】—それは何であれ、『アラ・ナ・ポグ』の中のアラが渡した鍵です—を有り難いことに私に塗ってくれたときの、私が大事にしているあなたの少年らしく断髪した愛らしい顔は、技術を駆使して情熱の花となる巻き毛とともに（ああ、なんてよこしま作り話なんでしょう！ あなたがもっていないものを、彼が大量に私のために買ったという作り話は！）、何トンものロバと引き換えると言われても、この二番手の彼に譲り渡す気はありません。今私がどう取り組んだらいいのか知っているということ、産毛さん、あなたははっきり分っているでしょう。私の親愛なる彼を私の近くに留めておいて下さい。だから私の上品な善良さを不安で傷つけながら、悪いあなた、私の香しい香りが大好きだからといって、可愛い男の子と会わせないために、私を引き留めるようなことはしないで下さい。さもないと先ずあなたのお命を奪ってよ。でも、小声で言いますが、このあと、今度彼と会う約束の頃より前に私に会って下さい。あのお船があるところの近くにある船舶亭を御存知でしょう。情けないことですが、そこはあの将来の哀れなお馬鹿さんが売春街を経巡る当たりにあります、ちょっとあなたの山高帽を直させて下さいね、実際着くのは大分遅くなるに違いありませんけれど。いとしいブタさんは怒るでしょうね！ 彼は皆の真似をして、だんだん声を荒げ自分に対し毒づくでしょう。裁判所で私のプリンスは愛のために私をぶつでしょうね。いつだかどこか誰にも分からないまま、私はそこに行くでしょう。そこに行く目的は決して忘れません。という具合です、私を信じて下さい。私たちのゲームなのね。（楽しむための！）私があなたを拒絶したら、すぐさまダーグル川は干上がることになるでしょう。一体誰がこんな拒絶するなどということを知ったことがあるのでしょうか。最後にはあらゆるニレの木の中のあのニレの木が、私の決心を石のように堅固なものにするでしょう！ そして苦難叔母さんがそれを仕上げ、死去叔母さんに力を貸すでしょう！ 私はあなたの名前をすべて金色のペンとインクで書くつもりです。貴重な毎日、記憶の葉が一枚一枚私の乙女心の通信ボックスに深く落ちている間、杉や楓や檜などの木の下で私が夢見るのは、このゼラチン状の文字の流れとなった心地よい電報が（彼には言わないで下さい。さもないと私が彼の死の原因となってしまうでしょう）、レバノンや、シケムや、キプロスや、バビロニア—これらの場所では、檜の木が葉が一斉にも問いたげな格好をし、イチイの木が葉もまた互いに接吻しあうのです—を通り、私の心の波となり、ハンガリーの聖マーガレットや、この女性の人助けの行為や、彼女の黄色がかかった髪についての言葉となって、私の静かに水に映った姿を、男の子たちの誰よりも、いいですか、あなたジョーンのもとへと届けるということなのです。あなたの説教が水しぶきとなり、音を立てて跳ね上がっている。土曜日の午後、鮭の翻りが私の心に一年中微笑みかけて、それを他の物事の4倍も高めてくれるのと同

じように、【その説教の】きらめきが私のぼんやりとした心を刺激する。そして、私の言おうとしていたことは何だっけ、監督者さん？ そうそう、分かったわ。私は生まれつきの紳士のようなあなたを、ここで待っているつもりよ。美しいシンクベトリル【アイスランドにある野外会議場の跡地】が、ヴァニラアイスクリームや保存処理されたクロフサスグリよりも甘く味付けされた、丁寧に作られた茶菓子のケーキになるまで。あなたが私に似るまで。あなたがいないしばらくの間ずっと、聖燭節までの間、誓ってそうする！ そして聞いて、ジョイ、私のことは心配しないでね、私の親しい甥御さん、あなたの人生の1章が終わるまでに、[461] 私をスターにするという高邁な理想をあなたが抱いているなら、私はボンズ・ヴァニシング・クレーム【crème】—彼らのやり方はクリーム【cream】をこのように表記するので—を塗って、表裏のある生活を目立たないようにして送ります。そして声を大にして言いますが、大切な人よ、自分の個性を最大限伸ばすために、私は自分用に、たった一着チャリティーコーナーのフェイス通りのホープ・ブロスデパートで、最もすばらしい、最も薄い、最も貴重な、厳格な空軍の軍人の未亡人用の、ぜひ着てみたいと思っているピンクの混じった水色がかった灰色の高価なレインコートを買うつもりです。というのも、いいですか、フェニックス・パークでヨークの公爵夫人が自転車を乗り回して以来、ミツパチが空高く舞い上がって活動するのが大好きであるのと同じように、薄紫色がいつも大好きになったからです。昔あったことを私が笑うのを嫌がらないで下さい！ 私はイライラしていたけれど、それは私のメンスの最後の日だったからです。いつもこの時間は、ごめんなさい、あなたがからかっているだけの私たちのブルーノとノランについてのゲームが終わるのですが、次に私はちょっと用事を済ませたあと、娯楽施設がたくさんある公園を通して、ふくらはぎのところがきついすごく上等のブーツを履いて、ロシア人の男の子と一緒にこっそり住居から出るので。このピンチャポッパホフ君は、耳元にささやいてくれたところによると、いずれ海軍の軍人になるつもりなのですが、愛する人よ、愛情あふれる母親にべったりの子なのです。でもね、最近夜になると、猫や暖炉にマッチする壁紙の張ってある、非常に上品なカーテンの取り付けられた照明がすばらしい2階で、私の金色に輝く派手な結婚式【のまねごと】を行ったあと、そう、高価な梨の木の丸太の窓から外を見ながら、私は彼やすべての男の子たちがこんな風なのか知りたくなってくるのです。私は祈りのあと、相手のものほしそうな目の前でさっと服を脱ぎ—私もまた本気でそうしているのです—（あなたのまなざしを私のまなざしに革ひもで縛り付けておきましょう）、堅いベッドに入って、その夜の外国人男性としての、頬がぼっちゃりとした自称中国人のルームメイトときこちなくじゃれ合うのです。そして次に、初めての日の朝、彼のクッカーという声によって起こされ、相手の唇で私が目を開けたとき、あなたのシェ

インという名前が、恥ずかしさに顔を赤らめながら、私の口から出てくることでしょう。それゆえ、子供っぽい話ですが、ソーン、オルガンのところでマグと一緒に座りながら、私たちは寝る前にちょっとしたお祈りをするつもりです。彼やあなたの代わりとして、この女の子にキスをします！ 私の愛する人、どうしたら控えめになれるか教えてください。そして、聞いて、これ以上はない敬愛を込めて言いますが、ジョーン、急いで警告してください。どちらを、あ、あ、あ...

—アーメン、とジュアンは彼女の妹らしい声に対し、完全に歌うように、ペットをなでる箇所すなわち手に、泡を吹くものすなわち水キセルを持ちながら、また大事にしている酒を【もう一方の】手にしっかりと持って、いつもの自分を見事に装いながら応じた。（おい、こぼれるぞ、水割りだから、ほら、ほら！）いつもながらすばらしい！ [462] 実際私はお前たちに感謝している。そしてまた聖なる父と祭壇の主にも。そうだ、紳士淑女諸君、並びに郵便局長殿、堂々と名のある歌を歌いながら、酒、女、歌を手にしようではないか。豊かなブドウ園に乾杯、アイルランドが干上がるまで！ その飲み物の尿を出す生き物が飲む新鮮な飲み物の一つを。酔え！ しこたま飲め！ スタッフェッタにはハーモニーを醸し出すクリームで弱めた強い酒を、男のいないジルにはクープ【デザート of 1種】を、そしてドリリスには糸のような別れの酒を。星々であるお前たちよ、ショーナサンが立ち去るからといって嘆いてはいけない！ 雪のように白い胸をぎゅっと締めつけられながらも、私は愛する者がもつ若者としての活気を奮い立たせるために、パイパー・ハイドシーク社製シャンペン甘い香りをかすかに漂わせている彼女用のシャンペンを、この花嫁のコップに傾けよう。そして私の尻の穴が下を向いている限り、すなわち私が生きている限り、真珠のように輝く我が英知が彼女の行動を未然に抑制している間、昔からあるみすぼらしい私の出歯の堅い内部にある緩衝用円筒部に賭け誓って言うが（そしてお前たちにも誓ってもらおうが）、私は決してお前たちの好む物事（芝居だ！）に対して不実ということはない。

ではさらばだ、かわいそうな私のイシーよ！ ただ私は自分の内的独白を忘れるつもりはない。というのも、私は私の親愛なる代理人をお前の慰め手としてここに残しておくつもりだからだ。この男は世間から忘れられたダンサー、デイヴ【シエムの人格をもつ】で、気難しい【社会からの】逃亡者であり、私の昔からの親愛なる友人でもある。彼は常にパンの皮を使った聖体分割式に出るであろう。もし彼がセックスにのめりこまず、常習的飲酒をとめることができれば、彼は彼なりに一角獣的人物となるであろう。些かの疑いもなく、私が誇りに思った最も力のある、郵便ポストの影よりも位が上の半影【少し明るい部分】である。私の宝物よ、もしお前たち少女たちの間に平凡な商売用のテーブルしかないのなら、必ずお前は学習する度に彼とつ

ながりをもて。ただし、学習の時間に競馬のことで彼が嘆くよう仕向けてはならない。しかし静かに！ そうできないか。一里塚が吠えているかね。彼が来る！ 彼が現れるぞ！ さあ！ 闘牛士が！ 身が震える！ やくざな者も皆、自分の心の渴望を話題にする。さあ、私のために彼がここにいる。強者のお帰りだ！ 彼の成功のあとを誰が引き継げるというのか！ 結局ジョーンの町は、オーストリアのように小さなこの場所ではないのか。確かに私の口からニンニクとニラネギのおいがしていた【ニンニクは不滅の象徴】。さあ、私の機転を祝福してくれ。ここに彼がいるのだ。親愛なるデイヴが。あたかも天から舞い降りたごとくちょうど今現われた、九つの命をもつ猫【叩かれてもただでは起きない者の意味】のような彼が。彼は全身平服で、古い世界の大陸から山々に登ろうと帰ってきたのだ。それも一歩も二歩も徒歩で帰ってきたのではなく、フランス革命以来5世紀をかけて自転車に乗って帰ってきたのだ。そして右手には豚の頭部をもち、生まれながらの頭には鳥もちをせせら笑うカモメを何羽か乗せ、ああ、アイルランド人の飼う豚のように赤面しながら、あの4時32分【432年は、聖パトリックがアイルランドに到来した年】より前に道なき道を通ってきたのだ。[463]彼は海面下ずっと深いところまでこの国にいやされた移民として、3本の羽毛を示しつつ【3本のダチョウの羽毛は、王位継承者としてのウェールズのプリンスがつけるバッジの模様】、20年間渡してきた人物証明書を、たいして恥ずかしがることもなく、これ見よがしにショーマンとしての左手に持っていた。この証明書持参者は、フィグラ・ポルカ【雌豚の格好の意味】とかリクター・マグナッフイカ【イチジク食いの下級官吏の意味】という名でサインして、教会を出ていくかもしれない。彼はどこかしら我々に似たところがあり、実に縮小された私の分身であり、ほとんどあらゆる点でイタリア人で、私と同じ鼻筋の高く通った人物なのだ。この陽気で冗談を言ったりする彼も、絶えず自分自身をむち打っており、いかなる少女であれ、愛する少女の尻に激しいむち打ちがなされるのを見れば、涙を流しながら母親譲りの赤面を浮かべるであろう。これが彼のちょっとした特質である。そしてこれが彼のもつ障害でもある。彼は私も知っている新奇的な考え方をもっており、なるほど時々全くの変人となる。またつむじ曲がりであり、自分の言った言葉に束縛される。しかし、完全な鼻つまみ者であり、半分色の変わった汚れた眼鏡をかけてはいるものの、私はこの外国人が大好きなのだ。これからもそうだと言えよう。同じ神の導きによって生まれ、同じ乳母に育てられると、同じ痛みが、同じ性質が、我々の住む昔からの世界を互いに似たものにする。我々は終始変わらず、筒型のドアベルのようにそっくりである。私ははねとばしてやりたいくらいに彼の明らかな異端性が嫌いではあるが、しかし私は愛を第一義に考える。私は彼が大好きだ。彼のポルトガル人のような鼻が好きだ。今やお前には、多くの哀れな罪人を墓場の貯水池で溺れること

から救ったこの悪臭を放つキンセンカの根のような鼻つまみ者がいる。彼の行動は、略奪者の自暴自棄の行動であり、またバジリアス・オッコーマカン・マッカーティーがとつたような、犯罪の司令塔的行動なのだろうか。彼はカモフラージュするために変節した。彼は目の前のあらゆる人の言葉を借用しなかっただろうか。彼はロシアの共産主義者やアルバニアの保守派などあらゆる人と友達にならなかっただろうか。どこにいても常習的に半クラウン硬貨しか持っていないアイルランド人とは異なると判別できるあらゆる著名なアイルランド人と接触しなかっただろうか。彼は分厚い眼鏡をかけているので老人臭く見えるし、ツノメドリの卵とともに鳩の卵を食べて生活しているために、やせているように見える。そして自らを卑下中傷しているが、このことについて私はあれこれ言わない。彼がコレラでないことを願っている。彼にはるか遠くにある島を与えよ。モーゼとノアよ、あなた方は今どうしているのか。以前言われたことだが、クジラの腹に閉じ込められたイオナの聖コロンバのように、彼はこざっぱりした性格の人物であろう、何とすばらしいことか、年上の長よ！ 名のある者よ！

腐敗したスペイン人たちが行く牢獄のような説教に敢然と立ち向かうなど、この可愛い妹にふさわしい子守役の長となるのに、この近くでは確かにこの小悪党以外誰もいない！ 彼は陽気で、洗練された、友情に厚い奴なのだ。いい仲間の筆頭格である。[464]私が私なりに虚心にこの知的な請負人ムッシュ・デイヴィッド・R 主教に最高の尊敬を抱いていることはデイヴ自身も知っている（ありがとう！）。我々は友人の中でも最も親しい者同士だ。いかさま師君、私が君を必要としていることを肝に銘じておいてくれ！ 淫売屋君、君にどんなに働いてもらうか、心に留めておいてくれ。何となく君が他者の言動のまねをする感じがするので気をつけてくれ。彼がこのことを分かっているのは残念だ。というも、私は彼のことを大変好ましく思っているからだ。彼はウェールズ人の希望の星であり、酒場で働く女性にとっての光輝である。狂人たちにも誠実であり、伝説の島ブラジル島を征服した。最も力のある人物だ。さようなら！ ああ、神のお導きで、ちくしょうめ、ダイヤモンドのように光っているボウボウの彼の髭を、誰かがニンフの脚のようにきれいに剃ってやった！ 彼は燃え尽きたメッシュの衣類を身に付け、ムシロなどの上で生活していた！ こともあろうに、このとんでもない思想家は、金を払わずに逃げ出すこともある。彼はつばをはきかけられるような人物で、実際そうされている。皮膚は垢だらけ、目はごろつき風で、帽子を脱いでいるときには、私の祖父であり昔の改革運動家であるシェミュエル・トゥリヴァーのように、チョボ口を取り囲む山羊ヒゲを見せていた！ そのために彼の後ろにいたクークラ・クスクラン団の女の子たちの目には、私がちゃんとした人物であるように映ったはずだ。ああ、彼は非常に思慮深く、思いやりがある。彼がパリに居住し酔っていないときのそのようなあり方が、

彼を「理知的な兄弟」にしている！ 実際彼はそうなのだ。彼がその牡牛のような骨を鳴らすのを耳にするまで、お前はそのままいてくれ！ おしゃべりばかりしているいけ好かない者もいるが！ 君はよく帰ってきてくれた。霜の中の赤い苺どもの中へようこそ！ ここではバター・エクスチェンジ楽団が、笛とドラムで、君のために『マルセイユーズ』や『ヤンキーの音楽家は子馬に乗ってロンドンに行った』を奏し、あたりをその曲で満たそうとしている。君のうわさ話を聞くのは飽き飽きした。帽子をかぶり給え。ここでは思いきったことをし給え、同心の友よ、クラダホの絆よ【グラダホはゴルウェイ市にある漁場。ここで作られるリングは、指を組み合わせて両手を握りしめつかんでいる図柄】！ 私はこの小粋な身なりの伊達男に出会い、この気取った奴に大きな衝撃を受けた。君の番人はどこにいるのか。君は世界地図上のあちこちの場所を荒らしながら、形も大きさも様々なものに出会ってきた。おんどり【が国鳥】の国フランスや、闘牛の国スペインはどうだったか。南風の古きオーストリアや空腹の国ハンガリーは？ ビール腹のドイツや、長靴とボールのイタリアは？ ヨーロッパのなかの七面鳥の国トルコが支配する獣脂のギリシャや、リンゴをもって岩場の広場に立ち、自由自在に弓矢を扱う父親【ウィリアム・テルのこと】の国スイスを忘れてはいけけない。ピョートル大帝には会ったか。アイルランドに侵入したバイキングの長ツルゲシウスの国ノルウェーは訪問したか。私の愛人の小柄なモナは、君が君自身の野獣法を制定し彼女をものにしたとき、最高のしとやかさで君に接したか。ランベイ島からの景色はよかったか。私は10個のキドニーを食べるよりも君がいてくれた方がいい。君がいてうれしい、本当に、フランス仕立てのデイヴィッド君、君を誇りに思うよ！ [465] 以前よりも立派になった！ 君に紹介しよう！ これが私の叔母のジュリア・ブライド【イシーのこと、トリスタンから見ればイゾルデは叔母】で、閣下君、彼女は彼女の薄暗い昔の三角関係に君を引っ張り込もうと躍起になっている。お前は彼に見覚えがないかい？

彼はジャコット閣下で、3人もの花嫁をもてあそび、人目につかないところに監禁したのだ。それで彼は強制労働付きの懲役刑を食らった！ 君は彼女が下着をつけてからというものの彼女に会ったことがないね。さあさあ、悪党君、腕前をためてご覧！ 種殖え付け君、恥ずかしがるなよ！

どうした、何をやっているのかね。恥など捨ててしまえ！

私の甥君、突き進め、我々二人のために、その下着の下に彼女はたくさんの接待の余地をもっている！ 自分自身をうまく卵から孵したまえ！ 完璧に楽しみたまえ！ 彼女が花ほころんでから彼女に食いつくまで待っているつもりかい。私が包み隠しもせずに激励しているのだから、はにかみながらも是非彼女を抱きしめ、君の記号的、粘着的な目で、いかに私が彼女の健康を気遣っているかを伝えてくれ。我々は神聖かつよこしまになろうではないか。彼女を大枝の上に乗せ、安穏な気分させようではないか。確

かに彼女は、『ライアンズ・メイル』に惚れ込んだように、我々の3枚の写真に惚れ込んでいる。この写真を写した時の我々は、『コルシカ島の兄弟』にでてくる兄弟のように結束の堅い子供たちで、空腹で怒りっぽく、円頂派【議会派】勢力のそばにいる王党派の騎士道的洗練さをもっていて、そしてまた私と君は、妹に対するパイロンのような苦境に立たされた真の罪人であり、人に話もしなければ人の話を聞くこともない第三者の人間であった。我々は、蛇使いの巧妙なトリック、ルーナ伯爵と争った男に向けられた刺殺人や密偵、またなりたての肉食主義者が受ける肉料理の誘惑といった事柄に、どのような印象を受けたのかをいつも夢中で話し合った。欲しいと言いつつさすれば手に入る女だ。彼女を抱きしめてやれ！ 完全な3拍子の流れるダンスに彼女がのめり込まないうちに、彼女をその哀れなつまらない運命から救ってやれ。私は魅力ある3シリングを渡して、あたかも彼女【イシー】が十字架像であるかのように、思いのままに君が彼女の顔一面にキスする様を私から覆い隠すための会衆用戒律を定めてもらうことにしよう。知つての通り、これは彼女の上下両方の唇にとっても好ましいことだ。女王のイアリングが模造品であること【まがいの幸せのこと】に気づくには、ヤドリギの下のキスほど適したものはない。考えに考えよ。あの巻き毛の詩人が言ったように、鼻歌を歌いながらその女の上着の裾をつかみ、そうしてしまえ。お前は彼のモーニング服の生地に合うか、ちょっとばかり粋なネクタイを合わせてみてくれ。生意気なイシーよ、この活気あふれる男を他の男から区別せよ。この土壌はお前自身のためにのみ存在する。無情になれ。親類縁者となれ。血族関係を持て。アイルランド的になれ。島国根性をもて。オフィーリアになれ。ハムレットになれ。資産を手にする計略を練ろ。ヨークシャー家とランカスター家のようになれ。冷静でいろ。自分自身を統御せよ。仕上げをご勞じよ。どこであろうと、カトリック教会ほど人を困らせるものはない。それは苦悩している人間を放棄する。海を見よ。時間をかけて海を制覇せよ。湖上の淑女【アーサー王伝説中の魔法使いヴィヴィアン】と森の囚人よ。[466] いやいや、二人はよき父親とよき母親になるかもしれない！ 頑張れ！ 二人とも！ 二人ともにだ！ 二人共鳴しながら！ 『カーローの地まで私についてきて』という歌があるが、二人ともにそうせよ。彼女のためになるものが手に入るのなら、たとえピンであってもそれを彼女の運命を左右するものと呼ぼう。君たちの立場は代えられない。互いに求愛しあう血を分けた者たちよ、周囲からの助けを受けようではないか。おしゃべりなガーガー鳴きわめく雌ガモよ、そしてまた雄ガモよ、彼女【イブ】の小さな愛のりんごをレアに、彼女【イゾルデ】の媚薬を次の獣の王であるレオに素早く渡し給え。私をリングサイドの席に座らせてくれ。君たちが汚れていくのが感じられる。そうになったら引き返したまえ。君たちが罪の意識をほとぼしらせているのが目に浮かぶ。そうになったら戻りたまえ。彼が



湯を沸かしているとき、私はお前の薪に火をつけてやろう。くしゃみのサミー君、詩人になれる希望が依然として君にはあると我々が感じられないうちは、いままでと趣を変え、メタファーを使った言い方は避けてくれないか。君にはそう言ったろう。もし自分の感情を明言する彼の愛にお前が疑いを抱いたならば、ヨーロッパが生んだ、女の話が読み取れるこの色男に重い傷を与えよ。切り裂き、より一層切り裂き、最大限にまで切り裂いてしまえ。ジャックで。ジャックナイフで、ジャックナイフを使って。私のヘーローとレアンドロスよ、このことについてなんとか言ってみ給え！ 女の心を魅せるやり方について。それはまともな女に対してねじれた、よこしまなやり方をとることだ。彼女の服を剥ぎ取れ！ 彼にそうさせよ。そうするのに彼は適任だ。もっと彼女の服を剥げ！ 再び彼にそうさせよ。彼女の望むことすべてを。おい、どんちゃん騒ぎの快樂派君、アンコールとして、君がもっているまがい物屋が作った口琴【金属の枠を上下の歯でくわえ、中央の薄い金属の舌を指先ではじいてならす簡単な楽器】を使って、瘦せた女をだますことはできるかね。信徒たちも歌っているのだからね。教皇庁控訴院も頭に神を、尻には悪魔をもちながら宝塔を治めているのだ。多くの頭のいかれた女の子たちは、聖職者のために建てられた、教皇庁控訴院が治める宝塔で楽しい日を送ったのさ。ウック！ この歡樂の煽動者は、人から促されたら精を出して常時歌を歌う。我々だけでうまい別れの酒を飲みながら、コロラトゥーラでもって、『ネルソンの死』始め、禁じられている歌をどうか歌ってくれないか！ さあやってくれ、兄弟！ 私は第2パイオリンを弾いて、君の歌に合わせることにしよう。『私の愛と、ロッシェル近くのコテージ』も歌ってくれ。物憂い、いんちき臭い、悲し気な君の歌は二調で、パイオリンはファの音階から。ちくしょうめ！ いや、どんどんやってくれ、同じ学校の制服を着た者同士だから、我々は口論し、からかいあい、絡みあい、それから、二つのはにかんだ蓄のように仲良しになるのだ。決闘による決着のつけ方をしても、陪審制の裁判によって争っても。いいぞ！ 今日はご機嫌いかがかね、肚黒君。何だって？ 合格かね、君？ やったね。君は、君は！ どうなかね？ 危険な牡牛君、シラミの病気君。本当に私は調子が悪くてがっかりだよ！ お前に対して言いつらいことがある！ この大黒柱の男の行く手には障害がある、娼婦がベチコートを手にかけているのだ。このR. E. ミーハン氏のブーツはみじめな状況にある。おやおや、彼のアイルランド的な目にはそれほど活気がない！ 甘い声の持ち主でも、彼の声はうめき声で調子ははずれだ。しかしこのような声でも、彼は中佐級の人物になりうる。[467] その吠え声はまだ耳元に残っているが、臼歯はなくなってしまっている。そのみじめなブーツは、我々が離ればなれになる前に私が彼に貸してやったものだ。神のとがめ立てであるかのように、そのブーツは一年中穴があいていた。しかし私は彼に、君の意志が成し遂げられ、将

軍にまで行き着くようにと言った。私は彼が神に告白することを願っている。もう1回！ そしてまたもう1回！ そうすれば私は君の理解者となろう。抱きしめたまえ！ 彼女をめちゃくちゃにしまえ！ キスは気持ちの高揚する前にしたし、カーテンの後ろでするものであろう。まさにトリスタンだ！ お前は独り言を言っている彼の心配そうな顔つきに気づいたか。私よりも完全に1オクターブ元気がない！ また自分を問いつめている時の彼のもだえるようなガラガラ声を聞いたか。そして、ちょっと待て！ 彼のブラウスのように薄いフロックコートに、シヤムロックの葉が恥じ入るようにしおれ集っているではないか。我々の国家の表象だ！ もう1回！ 彼はそのようなことはしないだろう。彼は内気だから。そうした心配そうな表情は、私の父の叔父のカイウス・ココア・コディンハンドの顔にも浮かんでいた。彼は絞首刑になった人物で—この時の様子は、人ばかりで私は見られなかった—、こうした表情を浮かべながら、私の叔父の仲間の完全に耳が聞こえなくなっていたウーウルフ・ウッデンピアド相手に、パベルの塔のなかで訳のわからない言葉をとぎれとぎれながら、そう、私がマトンの肉やビーフ付きビスケットをがつつ食べている時と同じくらい活発に話していた。しかしまあ、この人の話す話は、私にとっては全くどうでもいい話ではあったが。ここにいるセクシーな男は金の儲け方を私よりもはるかによく知っている。彼とは、彼が過去分詞にかかわる罪のために男子校を追い出されたあと、また司祭をだましているというデマや、スウィフトと同じくらい垢抜けせず無作法であるというデマを飛ばされたあと、売春婦を育成しようとしたり、異境に入ろうと自分の生気のない足を神聖視してリビエラに踏み込んでみたり、自分の世界と我々の世界との間に大洋を置き、その深みの回廊に中庭を置こうとしたりしたため、友人として、兄弟として、それまで以上に疎遠になってしまった。しかしその時以来、彼が早口をやめ、吃りを直そうとしているのを、私は彼の日記を見て知っている。素早く物事を知る者は、普通に記憶する者より2倍の知識を得るものだ。しかし彼の言葉が真実味を欠いていればいるほど、パース・オレイリーの話のような話を語る託宣者に対して、我々の耳は聞く力を弱めていく。この不運なシャレの名人、牛をも倒す口達者な英雄。彼を輩出したのは、オックスフォードのクライスト・チャーチ・カレッジとそしてまたトリニティー・カレッジでもある。そして彼は、私が出会ったオックスフォード大学のいかなる学生にも劣らず、上手に生き生きと歌える最高の歌い手なのだ！ 彼はもうじきお前のアイルランド人としての耳に、できうる限り上手に楽曲を奏でるであろう。そしてそれと同時に、彼の贅辞のついた、誰もこれ以上には書けない書き物を手渡すであろう。これは誤った読み方をすると有害にもなる、ロムルスとレムス【伝説上のローマの建国者である双子の兄弟】の時代からタルクイニウス・スペルプス【伝説上の第7代ローマ国王】の時代までのロー

マの道路について書かれたものだ。一方私は、お前がいる場所から遠くはなれていようと、我がトゥルス・ホストゥリウス【伝説上の第3代ローマ国王。ここでは教師の意味】に仕え、[468]大学の入学試験にごごご合格して【吃る】、中国福建省の布教活動の指南役となれるよう、諸学問についての最も神聖な書物を読み始め、自分の敵愾心を満たそう。このことはたいして君の心に残らなかったか。それとも強く印象づけられたか。私の兄弟、アウグストゥス君、以前私が勉学に勤しんでいた時代に、どのようにして君は私から学んだのか。シーザーが見ているなかで。彼はまず最初に身振りありきと言ったが、これは正しい言葉だ。というのも、最終的には言葉なき肉体の女がかかわってくるからだ。一方通常男の場合は、事前よりも事後の方が置かれる立場は悪くなる。というのも、女は仰向けになって男のペニスを満足させてしまうからだ！ 何度も何度も、類語反復的につらい目に遭う。【その点で】お前は第1級の並外れた女だ。areの未完了仮定法、つまり並外れた女だったかもしれない。とるに足りない、軽薄な、しかしながらまじめな女だ。詩的な女だ。仲間の女たちのように川、軸、丘などの女の特性を持っている。だから上半身の衣服を今すぐ進んでとれ。ニックネームで呼び合う親しい雰囲気、二人とも互いに絡み合うのは嫌か。そして突風であおられるかのように、ペチコートのみだ飾りをできるだけ上にたくし上げる。そうすればどうやって引き金を引いたらいいか、彼にも分かるだろう。お前を見せろ、そうすれば彼もそうしないだろうか！ 私が目で見ることを信じているように、彼は耳で聞くことを疑っている。率直に彼の体に触ってみよ。お前がどういう場合に最上の英語をしゃべるのか、彼に自分で考えさせよ。私の言いたいことに気づいてくれ。いい子だから、恥ずかしがってキスすることに文句を言うお前の姿を私に見せないでくれ。

さて、物語も終わりにさしかかっている！ 劇場の幕が我々を覆うのだ！ しかし、人間たちが言い争う様からストレスを受けながらも、そこから、つかの間だが、人間の縮図を明るみに出さなければならない、拍手を。

—さあ、これがまさに最後で、もう私はいかなる場面にも登場することはない！ 目覚まし時計など見たくもない。しかし私の腕時計を【私に見せないために】彼女たちがつけようとも、これで最後にしなければならない。というのも、縫い目のない靴下のそばの受話器から、そろそろ切り上げて、ゆったり歩き回る時になったという声が聞こえてきたからだ。足の中指がむずむずするがゆえに、私は姿を消さなければならない。さもなければ、ろくなことにはならない。別れの乾杯をして一気に飲み干せ。たくさん飲めば飲むほどたくさん歌が出てこよう。さようなら、しかしティスダルがトゥールに言ったように。いつでも時は矢のように過ぎ去っていく。とさかが嵐に見舞われた雄鶏のように髪が波立っている、二重に頭巾をかぶった偉大な老王者【グラッドストーン】も、私の辻馬車をここから早

く出すように言っている！ いや、そうだ、私はローマ軍に囲まれたカルタゴのような状況にあっても、ラバのように自由に解き放たれている。アンドロクレスがダニエル【聖書中の人物。バビロンの長官。家臣の陰謀でライオンの穴に投げ込まれる】の昔の仲間【ライオンのこと】と寝藁をともにするのに飽き飽きしていたのと同じくらいに、私はあそこの不愉快な連中に向かって感謝の祈りを叫ぶことに飽き飽きしている。この小屋は今や私が満足できるほどの大きさをもってはいない。私の大事な者よ、私はお前のことを夢見よう。そしてコーラスガールよ、次のことを覚えておいてくれ、健康には注意せよ、ということだ、我が妹も！ 家の中の者の死を予告するというバンシーが、鬼気を高く舞い上がらせながら、自分の乙女の髪を梳いている。[469]真夜中がその乳首の間を過ぎていくとき、バンシーは予告の言葉を叫ぶのだ！ 天上の娘たちよ、アダムのさまよう息子たち【世の男たちのこと】に向かうときには幸運を！ 大地は早足で進んで行く！ 太陽は叫んでいる！

大気はジグのダンスを踊っている。水は偉大だ。昔からある7つの丘【ローマの7つの丘】と唯一の青い光を放つ海よ。さあ出かけよう。そうだ、私は出かけるのだ。必ず出かけよう。どこであろうと、アイルランドからずっと離れたところに行かなければならない。鞍も鎧もつけず、ただ時はずみだけで。だから私は略奪者マホメットの忠告に従おう。それは何か！ 翼の生えた馬を借りる途をいち早く知り、エルサレムの嘆きの壁から喝采の通りへと、馬蹄の音を響かせながら向かう私の行く手に障害はなく、私は空虚な世界のあちこちを旅するのだ。そこは私にとって勝利の土地であり、大変な幸運が得られるところなのだ！ すばらしいことだ！ 冗談を言っているのではない！ 自ら進んで辛い目に遭ってきたのだが、それもよかったのだ！ さあ、私のよき囚人の運び屋たち【手に負えない囚人等を4人がかりで手足を取って運ぶ人たち】よ。我々は今まで自分たちが墮落したと感じていたが、これからは汚濁に立ち向かっていくのだ。私の聖なる母親は流水の川セレス・マリツァ川ではなかったか。そしてこの母親を活気づかせる大胆な者は、海から生まれたあのノルウェー人【HCE】ではなかったか。木のような体に海藻を一面につけ、貝殻に入って寝ている可愛い人形【アフロディテ】を抱きながら、グリーンランドを回って進む、小山のような体躯の捕鯨船員に自分になっているような気がする。ダブリンはこれまで私を見てきた。さようなら、アイルランドよ。私は新たな世界に入るため、跳躍し、疾風の如く異国に突き進む！ アイルランドにもお前にも、しばしの間お別れだ！ 海が将来の私の花嫁となる！ お嬢さん、先に立って案内しなさい。そうすれば昔からのダブリンを初めて見る者に感謝されるだろう。唯一、たった一人で【私は行く】、お元気で！ 恥の多い国アイルランドよ、さようなら！ 歌を歌いながら舞い上がろう！ さあ、出発だ。兄よ妹よ、今をおいて時は他にはない！ もうその時刻だ！ ここに

留まる全能者は熱き足を祝福し給え。申し訳ない！ 口笛吹きがケリーの男の子たちに歌って聞かせたこの弁明的小説を携えながら西に向かいつつ、私は全員を祝福しよう。解散だ！ 闘争を行う煩わしさに次に私が一番に考えるのは。忌々しくもお前たちのことだ！ これで終わった。1、2、3。素早く立ち去る私の姿を見てくれ。

哀れな郵便配達人ジョーンが間に合わせの演台を使って行ったスピーチの後半の最後の恐れなき言葉は、最高の盛り上がりで終わった。このあと28人プラス1名の乙女たちは、手助けするために翼をはためかせながら彼の元に押し寄せ（彼女たちは手袋をはめたまま、彼の上質の巻き毛をはさみで切って撫で付けることはできるのだろうか。そしてその若者の輝きを保っておくことはできるだろうか。）、もし彼がさっと立ち上がるのなら彼を元気づけようと、まともし彼が倒れるのなら悪態をつこうとした。しかしケルビムたちがロデオのような馬車に乗り、隊列をなして、くびきやはみをつけてもらいたくないのかと馬に言いつつ、あちこちに座って、全く直接に娘たちにかかわろうとはしないなかで「[470]」というの、自分たちが大きく誤解していたと我々が感じたことだが、ある種の秘術を使って棒で突いたり、足蹴にしたりして、関心を魔法のように急に向けさせようとしても無駄なことだからだ、2月に溝からあふれる水のように元気旺盛な寄り集まった娘たちは、茂みに隠れたり、木に登ったり、ぶらぶら歩いたり、泣いたりしていたのだが、真夜中のヒマワリであり黎明の光である、彼女たちの暗闇のなかの救いそのものの彼女たちの祝福された少年に向かって、涙を流しながら深く膝づき、また彼女たちの幸せそうな手を樂しげに打ち合わせて、いつもの調子で賛同の声を上げたのだった。そしてそうしながら、本当にかっかりしたような叫び声をあげ、かわいらしく、おしゃべりをしつつ、この義にかなった人、彼女たちの愛する者が立ち去るのを見送っていた。

好意ある心が抱く夢、好ましい夢。自分たちには分かっていると思っているということ、どう自分たちが思っているか彼女たちは知っている。それゆえ彼女たちは嘆き悲しんでいる。

今日！ 今日の悲しみ！ 願わしくも詩編の詠唱となる。昨日の賛歌は明日の嘆きに応える。

オシリスよ、葉に覆われた幹の下で昼間を高める杉の木を与えよ！

オシリスよ、ため息によって心の重圧を鎮めよ！

オシリスよ、これから来る喜びの日々を最も高める友を与えよ！

オシリスよ、バラの咲く幻想的で清らかな道を与えよ！

オシリスよ、広大な露営地に歌を広める新たな譜を与えよ！

オシリスよ、露に満ちた蜃気楼のごときプラタナスの木を農園に植えよ！

女も男も操り人形たちは他人には分からない惨めさを

もっている！

しかしこれまでにない不思議なことが起った。川の中に転がり込むという好ましい状況のうちに出発しようと、後方に小走りになっていたジョーンが、ちょうどそのとき嘆いている者たち（このときまでに、彼女たちは郵便配達人が最後に去るのを、長い葉が半ばしおれるように嘆いていた）の中でも最も心優しい者から、おなじみの黄色いラベルを受け取ると、それに一滴の涙を落とし、悪態の文句を殺し、馬鹿笑いを押さえ、痰を吐くようにつばを吐き、自分自身を賛美する姿を私は見た。そして次に彼が行ったことは、そのラベルのネバネバした裏側をなめ、その卵形の信頼のしるしを、アイルランド人特有の半ば陽気なまなざし（ジョン・ジェイムソンを飲みながらの別れのまなざし）で彼の相似した二つの粗毛の眉の下から相手を見つめながら、淑女らしい彼の若い雌牛たちを振り向かせ（聖なるならず者たちめ！）、心からの抑えがたい敬虔さをもって自分の天使のような額に貼付けた、ということであった。このとき、心穏やかなこの娘たちが今までよりも一層腕を広げ振っている間（心穏やかなフリーダ！、心穏やかなフレダ！、[471]心穏やかなパザ！、心穏やかなペイズィー！、心穏やかなアイリーン！、心穏やかなアライネット！、心穏やかなブリードメイ！、心穏やかなベンタマイ！、心穏やかなソソソプキー！、心穏やかなベベベッカ！、心穏やかなパバパドケシー！、心穏やかなグググトユー！、心穏やかなダマ！、心穏やかなダマドミナ！、心穏やかなタキヤ！、心穏やかなトカヤ！、心穏やかなシオッカラ！、心穏やかなシウツケリリーナ！、心穏やかなペオッキア！、心穏やかなベウッキア！、心穏やかなオ・ミ・ホーピング！、ハ・メ・ハッピーニチェ！、心穏やかなミツラ！、心穏やかなミラ！、心穏やかなソリマ！、心穏やかなサレミタ！、心穏やかなセインタ！、心穏やかなシアンタ！、オ・ピース！）、彼は別れのしるしとして、あたかも海の向こうから手を振る代わりにすぎないかのように、そのような行動をとったのであった。しかし、ステラとヴァネッサのうち可愛い方くらいに可愛い、彼が愛していた—この場の状況にとっては不幸なことだったのだが—一目がくらむような美人のほっそりとした胸と抱擁を取り交わそうと体のバランスを正しながらも、しかしまたほとんどの人が予測しなかったときに、彼女たちのスターであり、靴下留めを熟視していたこの人物は、気分が最高潮に達すると、南十字星を手ぶりで表わすことで修道女たちを祝福し、少しばかり右前方に体をぐらつかせ、縁が緑色のバンドのついたバンガロー風のボルサリーノの帽子を愛の突風に吹き飛ばされながら（発見者には賞金を出します！）、自分のために新たなスタートを切ろうと東の方に走り出した。そして赤毛のジョージオンは、誇大妄想的にスピードを出し（頭脳はなくとも足はもつべし！）、ためらいなく、ちょっとしたリレー競走のように、ダブリン城から少し離れた橋の近くを突進し（この橋に放尿でもしないかぎり、彼はこの橋の控

え壁をなんとか汚さずにすんだ。しかし汚さずにすまないとしても、いかなる害があるというのか)、そしてそのあと、この地域の一般思潮と近くて遠い存在である自分の説教の根本部分に軽蔑の仕種を示しながら、この巨体の男子は急いでこの場を去り、解き放たれた臭跡する猟犬のように飛び出し、自分の足で道を進んだあと(この男子のことゆえ！

そのとき彼女たちはフトモモを彼に与えたと、あなたたち読者は思うであろう!)、一つにまとまった秋波が、大氣中に伝わる天使の呼び出しのように激しく揺れながら彼の風上に送られ、そしてたくさんの素敵なお贈り物の包みが、ファンレター用である小エビ用ネットの筒の中に、あらゆるなじみの者たちから溢れんばかりに送られるなか、彼は国の幹線道路である「逆族の航路」、即ちアイリッシュ・シーを突き進んでいた。それを見ていた愛に満ちた花の娘たちの騒ぎのあと、彼は彫像のような人々にまぎれて、すぐに見えなくなってしまった。尤も姿を消したことで、疑いなく、彼は皆の頭の中で一様にさらに美しい記憶となった。一方、聖アースラが彼こそ【乙女たちの】副番人と呟いたところの、生まれつきのイブセンであるサッカーソン【ダイヴのこと?】は、心を悲しみに満たしながら(この好男子の握手の相手として、おぼつかない彼の足取りを締めつける聖アースラの胸の暖かみ以上に、どのようなものが適しているというのか)、進む道を変え別れを告げるのを、どれほど我々はためらってきたことか、と思っていた。

さてそれでは、田舎者のホーンよ、ギネス飲みよ、人の心に訴えそれを癒す甘い嘆きの声をもって生まれたセンチメンタルなバリトン歌手よ、[472] シャムロックの国を思う心の持ち主よ! どうか妖精たちがあなたの足を早めてくれますように! 揺りかごのなかの乳飲み子の喃語は、樽の形の祭壇に立つ平修道士の豊かな英知となったのだ。どうかあなたの美しい髪がより一層まれなる髪に、より一層金色の髪になりますように、唯一幅広い頭脳をもった我々の男子よ! あなたの声を休めよ! あなたの心に糧を与えよ! 言動は慎重に! 依頼は巧妙に! ブラーニー城など相手にせず、魅力に満ちた我々の柱を歩き、あなたが初めて『おお、我が教会よ!』の賛歌を歌ったあの美しい近くの岩場を再び見、あのリュート形の灯に触れ給え。歌い手よ、釣り師よ、振付け師よ! 囚人を笛で慰める者よ! すべての国の大使となった音楽家よ! 生まれつきの善なる者であり、自然児となるよう意図されたあなたは、若者ホーンよ、我々にとってみれば寛大に扱われてきただけなのだろうか。しかし私の言うことを的外れに聞いているのなら、私が口調を早めても確かに何の効果もない。私の長い別れの言葉をあなたに贈ろう、娯楽や遊戯、そして常に何か新しいものについて美しい夢を見ているように、と。ホーンは行ってしまった! 私の悲しみの元よ、私の破滅の元よ! 我々のエホバであり、ユピテルである者よ! 我々のクリッシュナであり、キリストである者よ! あなたは、過去の中に現在のあなたの対蹠地を求め、光

に背を向けた巡礼の旅に戻りつつも、我々を導く光として最後から最初まで道中十分大事にされるだろう。大きな喜びをもたらす配達すべき手紙を、愛の対象とするのいくらか遅くとも遅すぎることではない郵便箱に頻繁に入れてくれたあなた、巧みな手の優しい使い手よ、犠牲的精神で勝利した者よ、すべての者の中で最も親愛なるホーンよ、救済者であるあなた、真の誠実なる者よ、一步一步歩む者よ、わずかな時をも厳守する者よ、ランプの携帯者よ、郵便の産み出し手よ、多くの点で我々の長となる者よ! 今や弱くなりつつあるあなたの蛍の光のようなランプの光を、我々は今後見ることは決してないだろう。しかしその光を見れば、我々の守護聖人であるあなたに賛辞を贈るべきだということが、どんなにうまく4つの州に伝わっているか分かる! というのも、一あなたや彼女たちに代わり、我々の代表として敢えて私はこのことを口にしてもいいのだろうか—今までに独身の男たちに会っても目にすることが滅多になかった、奉仕の心がもつ熱意の輝きの核心があなたにはあるからだ! 今日我々のこの国では、この広大な世界のなかで慎ましやかに生き、運命に翻弄され、偶然の事件に巻き込まれるものの未だ死の天使に乞われていない、次のような生活を送っている人が数多く、いや、未だ十数人いる。すなわち、アイルランドにとって喜ばしきその日の、流浪生活を送っていたジョーンが戻ってくるその時まで、あるいは、若いも若きもすべての時代の人々の罪なき嘘つきジョーンが、[473] 何十年間もの長い苦しみのあと、何十年間ものつかの間の栄光のあと、我々の過去に何があったかを我々に思い出させるために、我々の生き方の腐敗を悟らせるために、聖シルヴェステルから真の教えを授かり(彼自身のみがワルツの踊り手のように歩んでいる。みんなはきわめて気まぐれにもつぶやきながら歩を進めている)、その日が始まるその地を出てから長い間いなくなり、ついに故郷に歩いて帰ってくる真夏の祝祭日まで、自分たちのこの地上を自分たちが去ることがないようにと、何時間も、何日間も、天上の聖霊に熱を込めて祈ろうとしている人々がいるのだ。本当にあなたがいないければ人生は空白になるであろう。というのも犠牲となる者が全くいなくなり、誰も知らない状態から何の関心を抱かれない状態になってしまうからだ。そしてこのあとモレク【ユダヤの神。子供を生け贄に捧げる。】の起こした戦が悪魔の時代をもたらし、日付と消印の日との間に時のすれが生ずる。このずれはダンディーな洗礼者ヨハネの祝祭の日からずっと、ダービーが行われる凍える12月の聖職按手祭の日まで生じ、この日の晩から我々は、我々が向き合うのを恐れる過去の自分自身と一体になり、一体化したと感じ、そして一体化しながら消えていくのだ。

しかし、少年よ、あなたは軽快にあたふたと全速力で9フロングもの距離を行ってしまった。従順な勝利者よ、足を高くあげ、弾むような足取りでそうするとは本当に信じがたい行為だ。このように歩き去ったあなたの偉業に太刀

打ちできるのは、これから何世紀にもわたって、あなた自身をおいて他はない。エルボス【ギリシャ神話中の冥界の神。暗黒界を意味する】が母のカオスを沈めるよりも前に、フェニックスは太陽を昇らせた。輝く鳥フェニックスよ、太陽に向かって急げ！ さあ、行きたまえ！ 間もなく我々自身のフェニックスも、絶頂に達したその力をほとぼしらせ、猛烈な炎となって太陽へ向かうであろう。ああ、どんよりとした視界のきかない薄暗闇は既に消えてしまった。勇敢な、しっかりとした足をもったホーンよ！ 前へと進め！ 続けて！ 今だ！ この向こう見ずな者よ、勝利を得よ！ 沈黙していた雄鶏も最後には時を告げるであろう。西も東を揺さぶって目を覚まさせるであろう。歩め、朝をもたらす夜の間も、光という朝食をもたらす者よ、すべての過去が寝静まる朝をもたらす夜の間も。アーメン。

### (注)

『フィネガンズ・ウェイク』の原典は、James Joyce, *Finnegans Wake* (N.Y. Viking Press, 1947) を使用した。本文中の [ ] 内の数字は、*Finnegans Wake* の原典のページを表す。【 】内の日本語は、該当箇所の内容を筆者なりに解説したものである。( ) 内の日本語は、原典の ( ) 内を訳したものである。参考文献としては、以下の書を使用した。

1. Campbell, Joseph and Henry Morton Robinson. *A Skeleton Key to Finnegans Wake*. 1944; rpt. N.Y.: Viking Press
2. Rose, Danis and John O' Hanlon. *Understanding Finnegans Wake: A Guide to the Narrative of James Joyce's Masterpiece*. New York: Garland Publishing, 1982.
3. McHugh, Roland. *Annotations to Finnegans Wake*. Revised edn. Baltimore and London: John Hopkins University Press, 1991.
4. Glasheen, Adaline. *A Third Census of Finnegans Wake*. Evanston: Northwestern University Press, 1963.
5. Mink Louis O. A *Finnegans Wake Gazetteer*. Bloomington and London: Indiana University Press, 1978.
6. 柳瀬尚紀訳、『フィネガンズ・ウェイク』I、II、III、IV、河出書房新社、1991年
7. 宮田恭子訳、『抄訳、フィネガンズ・ウェイク』集英社、2004年

## 『フィネガンズ・ウェイク』第3部第2章の概要 (2)

大島 由紀夫

(東京海洋大学大学院海洋工学系海事システム工学部門)

**要旨：** ジェイムズ・ジョイス著『フィネガンズ・ウェイク』の第3部第2章の454ページ8行目から473ページの25行目までを訳出した。逐語的に訳した所もあるが、内容をくみとりながらその主意を表した所もあり、「概要」といった題名にした。この訳出した箇所では、ジョーンとなったショーンの、28人のレインボーガールズ(女子学生)及び妹イシーに対する説教、並びに妹イシーのジョーンに対する別れの言葉が記されてある。

**キーワード：** フィネガンズ・ウェイク、第3部第2章、概要